

■ 株主メモ

事業年度 4月1日から3月31日まで

期末配当金
受領株主確定日 3月31日

中間配当金
受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel 0120-094-777（通話料無料）

公 告 方 法 電子公告
ホームページ： <http://www.soft99.co.jp/ir/koukoku.html>
電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは
日本経済新聞に掲載いたします。
※ 当社の貸借対照表、損益計算書はEDINET（金融商品取引法に基づく有価
証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。

単 元 株 式 数 100株

上場金融商品取引所 株式会社東京証券取引所市場第二部

インターネットホームページ <http://www.soft99.co.jp>

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本店及び全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店及び全国各支店でお支払いいたします。



第57期 年次報告書

平成22年4月1日 ▶ 平成23年3月31日

ソフト99コーポレーション

株主の皆さまへ

新中期経営計画

「Spiral Up “FINAL”」を策定いたしました

代表取締役社長 渡辺 泰



株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度の東日本大震災により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

幸いにも、この震災による当社グループへの直接的な影響は軽微なものでありました。今後の先行きは依然として不透明な状況が続くことが予想されますが、当社としては過度の自粛を避け、大阪に本社を置く企業として何ができるかを考えながら、「関西から日本を元気にする」気持ちで取り組んでまいります。

さて、第二次中期経営計画「Spiral Up “NEXT”」では、「付加価値の創出を意識した新しいことへのチャレンジ」を意識し営業活動に取り組んでまいりましたが、世界的な金融危機の発生をはじめ、当社グループをとりまく事業環境が大きく変化する中での活動であり、残念ながら当社グループが当初掲げた最終年度の目標には届きませんでした。

当社事業を振り返ってみれば、ガソリン価格の高騰や自動車販売の減少にはじまり、「エコカー補助金」等の各種政策の実行等、自動車を取り巻く環境はめまぐるしく変化しました。しかし当社はこのような外部環境に左右されることなく、常に新しいことへのチャレンジを続けながら、地に足を着けた営業活動を続けてまいりました。その結果、「ガラコワイパー」に代表されるような、長寿命車社会において大きな柱となる製品を育て上げることができ、将来につながる準備が整いました。

この度策定しました新中期経営計画「Spiral Up “FINAL”」は、これまでの中期経営計画の集大成と位置付け、グループ経営理念を「生活文化創造企業」に改めます。

そして、「未来の『あたりまえ』を発見する」を経営ビジョンに掲げ、お客様にとって「いつしか『あたりまえ』になった」と感じて頂けるような製品・サービスを常に創り続けることで、今後も事業拡大を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成23年6月

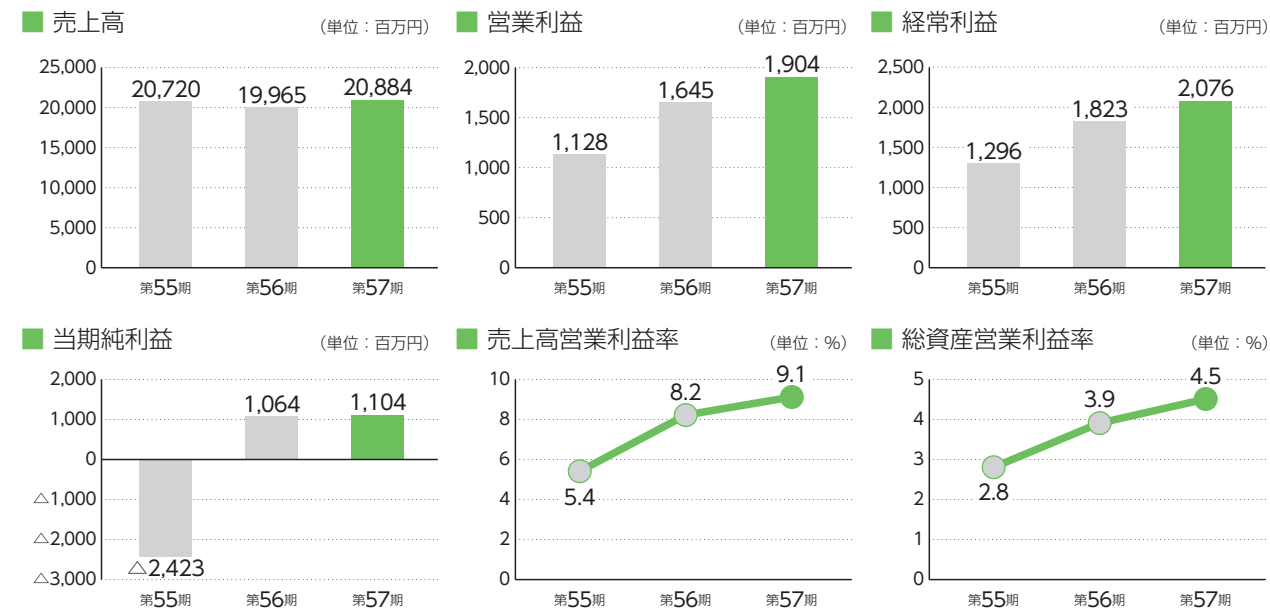
財務ハイライト

売上高	20,884 百万円	前年同期比 4.6%
営業利益	1,904 百万円	前年同期比 15.7%
経常利益	2,076 百万円	前年同期比 13.9%
当期純利益	1,104 百万円	前年同期比 3.7%

■ 連結業績概況

連結売上高については、主にファインケミカル事業部門において、自動車用製品を中心に国内外で販売が好調に推移したことや、サービス事業部門のオートサービス事業において、自動車整備・钣金事業の入庫が順調に推移し、新規取引先の開拓も進んだこと、そしてポーラスマテリアル事業部門において、市況の回復により受注が増加したこと等で前年同期を上回る結果となりました。

利益面については、売上高の増加に加え、ファインケミカル事業部門において、業務用製品をはじめとする高付加価値製品の販売へのシフトが進んだことや、工場の稼動が好調に推移したこと、そして各事業において事業効率化の取り組みに努めたこと等により、営業利益、経常利益とも前年同期を上回る結果となりました。当期純利益についても、株式市場の低迷により投資有価証券評価損を特別損失として計上しましたが、前年同期を上回る結果となりました。



業績の概況

ファインケミカル



- 販売店が増加したワイパーや、自動車ガラス用製品「ガラコ」の販売が、キャンペーンにより前期同様好調に推移。自動車用補修材「99工房」の販売も好調な結果となり、まとまった降雪によりタイヤチェーンの販売も増加したことで、消費者市場向け製品販売は増収に。
- 業務用製品販売では、「エコカー補助金」の期限切れによる影響を受けたものの、通年では増収に。
- 家庭用製品の販売では、主力製品「メガネのシャンプー」の販売が苦戦したものの、得意先との新製品販売の取り組み強化等、積極的な営業活動を行ったことで増収に。
- 海外向け販売は、中国・東南アジア・ロシア向け輸出が増加し、増収に。

ポーラスマテリアル



- 産業資材部門
- 前半は好調に推移。後半はハードディスク業界の生産調整の実施や海外の競合との競争激化により受注は伸び悩むも、増収となった。

生活資材部門

 - 国内では、気化熱利用の冷却グッズやスポーツ用品の販売が増加。輸出では、米国やアジア諸国向けの出荷が好調に推移したことで、生活資材部門は前年並みの売上高に。

サービス



- オートサービス事業では、新設工場の新規顧客開拓活動に努めたことや、既存工場でも大口顧客の新規開拓活動が進んだことで順調に事業を拡大し増収に。
- 自動車教習事業では、設備や人員の稼働率向上に取り組み、前年並みの売上高に。
- 生活用品企画販売事業では、生協の販売が苦戦する中、利益率の悪い商品の取り扱いを中止する等、事業の効率化に取り組んだことで、減収に。

不動産関連



- 不動産賃貸事業では、当社の所有する主な物件で賃料収入が安定し、ほぼ前年並みの売上高に。
- 温浴事業では、店舗数の減少により（前期は4店舗、今期は3店舗）前年と比較して減収となるも、独自イベントの実施や飲食メニューの改定等、お客様満足度向上の為の活動に取り組んだことで、3店舗における来客数は増加。

特集1 中期経営計画「Spiral Up "NEXT"」 結果報告

前中期経営計画「Spiral Up “NEXT”」は、その期間中、世界的な金融危機やそれに端を発する経済活動の低迷などの不確実性の高い事業環境の中、当初策定した売上目標には届かずに課題を残しました。

しかしながら、グループの基本方針として掲げた「『新しいこと』へのチャレンジ」を通じた取り組みの中で、利益面において一定の成果を残すことができました。

「Spiral Up “NEXT”」 振り返り

■ 数値目標（連結）

最終年度業績目標（連結）		最終年度業績（連結）	
売上高	23,000百万円	売上高	20,884百万円
営業利益	2,000百万円	営業利益	1,904百万円
経常利益	2,200百万円	経常利益	2,076百万円
当期純利益	1,250百万円	当期純利益	1,104百万円

- 事業拡大に取り組むも、金融危機の影響もあり売上高は当初計画に届かず。
→ポーラスマテリアル事業で約1,300百万円未達成（金融危機後の半導体業界不振の影響を受ける）
→不動産関連事業で約850百万円未達成（不採算店舗の撤退分）
- 一方、利益面では、付加価値の創出を通じた「新しいこと」へのチャレンジに一定の成果がみられ、目標を上回る結果となった。
→ファインケミカル事業では、営業利益が計画値を約230百万円超過し、他事業部門の落ち込み分をカバーする結果となった。（業務用製品等、高付加価値製品への販売シフトがすすんだ）

■ 経営諸指標

	計画	実績	差異
売上高営業利益率	8.7 %	9.1 %	+ 0.4 pt
営業利益伸長率（※）	35.4 %	28.9 %	△ 6.5 pt
ROA（経常利益/総資産）	4.7 %	4.9 %	+ 0.2 pt
ROE（純利益/純資産）	3.0 %	3.0 %	± 0.0 pt

※中期経営計画「Spiral Up '05(2006-2008年)」末比

- 売上高目標は未達成となったが、製品とサービスの融合による付加価値創造に一定の成果があがったことで、営業利益率は当初計画を上回る結果となった。
- 営業利益率の増加によりROAも当初計画を上回るも、特別損失の計上により当期純利益が減少し、ROEについてはほぼ計画通りの結果となった。

※当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

特集2

新中期経営計画「Spiral Up “FINAL”」

(2011年4月～2014年3月)

ソフト99グループは、さらなる事業拡大を目指し、
新中期経営計画「Spiral Up “FINAL”」を策定しました。

概要

経営理念:「生活文化創造企業」

経営理念は普遍的なものと再定義し、創業以来掲げてきた経営理念に原点回帰

経営ビジョン:「未来の『あたりまえ』を発見する」

『あたりまえ』とは …… 一過性のブームで終わらない、お客様に長く愛される、いつもお客様のそばにある製品やサービス
『発見』とは …………… ハイテク製品ではなく、日常生活からお客様に支持されるような製品やサービスを見つけだす。

数値目標（連結）

	2011年度（予想）	2013年度（計画）	当社が目指す姿（※）
売上高	20,900 百万円	23,000 百万円	28,000 百万円
ファインケミカル	9,450 百万円	10,600 百万円	
ポーラスマテリアル	4,800 百万円	5,400 百万円	
サービス・不動産関連	6,650 百万円	7,000 百万円	
営業利益	1,700 百万円	2,300 百万円	2,800 百万円
ファインケミカル	650 百万円	1,060 百万円	
ポーラスマテリアル	550 百万円	700 百万円	
サービス・不動産関連	500 百万円	540 百万円	
経常利益	1,850 百万円	2,450 百万円	2,900 百万円
当期純利益	1,100 百万円	1,500 百万円	1,750 百万円

※「当社が目指す姿」へ向けた事業拡大のため、今後も新事業への投資やM&Aを通じた事業規模の拡大を目指し、計画とは別に売上高50億円、営業利益5億円を目指して取り組みます。

セグメント別 事業戦略

Fine Chemicals
ファインケミカル

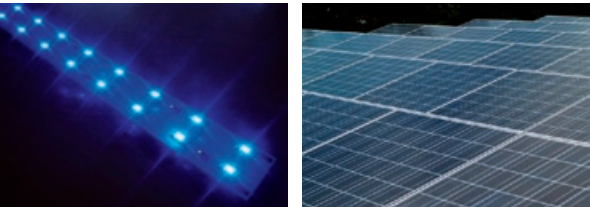


消費者向け製品販売では、縮小傾向だった市場規模は底をうち、高付加価値製品の販売は増加傾向にある中、今後も近年拡大しているワイパーの更なる拡大や、洗車関連、タイヤお手入れ製品の高付加価値の新製品を積極的に市場に投入します。同時に新しい販売チャネルの開拓も進めてまいります。

業務用製品販売では、コーティング剤のさらなる性能向上を図るとともに、自動車整備業界に対する新しい美装サービスの提案や、当社固有の技術を自動車用途以外へ展開すべく、積極的な製品開発をすすめてまいります。

海外では、中国、ロシア、東南アジアを軸にさらなる拡販に取り組みながら、ポーラスマテリアル事業と協調し、他の新興国の開拓を行いながら事業の拡大を図ります。

Porous Materials
ポーラスマテリアル



産業資材部門においては、特定の業態に左右されない事業基盤の確立を目指し、前中期経営計画で掲げていた「新しいこと」への取り組みを加速し、既存商品分野における品質・コスト競争力強化に加え、太陽電池やLED基盤等の用途開発を行ってまいります。

生活資材部門においては、消費者向けの製品開発などの先端分野以外の新用途開発を積極的に行うとともに、海外では米国や東南アジア等の既存取引先への販売強化に加え、ファインケミカル事業と協調しながら未開拓市場への積極的な展開を図ってまいります。

Service & Real Estate

サービス・不動産関連



オートサービス事業では、首都圏の事業拡大を図るべく、平成24年に完成予定の新工場を基点に新規顧客の開拓を図ってまいります。
生活用品企画販売事業では、得意先である生協の苦戦が続く中、今後は収益源の多様化を図るべく、インターネット通販等の成長性が見込まれる販売チャネルの開拓をすすめてまいります。
自動車教習事業では、経営資源の最適化を目指して効率的な運営の継続を行うため、大型免許や安全運転講習等のメニューを充実して繁閑を最小限にする運営を目指してまいります。
温浴事業では、引き続き顧客満足度向上のための取り組みを行いながら、地域のやすらぎコミュニティづくりに努めてまいります。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 (23.3.31 現在)	前 期 (22.3.31 現在)
(資 産 の 部)		
流動資産	14,443	15,406
現金及び預金	7,166	9,241
受取手形及び売掛金	3,064	2,792
有価証券	1,614	801
たな卸資産	2,051	2,032
その他	547	538
固定資産	27,814	26,320
有形固定資産	22,043	20,813
建物及び構築物	5,076	5,224
土地	15,642	14,392
その他	1,324	1,196
無形固定資産	218	171
のれん	65	7
その他	152	164
投資その他の資産	5,552	5,335
投資有価証券	4,603	4,143
その他	949	1,192
資産合計	42,258	41,727

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	当 期 (23.3.31 現在)	前 期 (22.3.31 現在)
(負 債 の 部)		
流動負債	2,558	2,958
支払手形及び買掛金	1,013	957
未払金及び未払費用	900	866
その他	644	1,133
固定負債	1,837	1,704
退職給付引当金	960	936
その他	876	767
負債合計	4,396	4,662
(純資産の部)		
株主資本	37,720	36,938
資本金	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	32,624	31,841
自己株式	△ 329	△ 329
その他の包括利益累計額	142	△ 81
その他有価証券評価差額金	7	△ 207
土地再評価差額金	110	91
為替換算調整勘定	24	35
少数株主持分	—	207
純資産合計	37,862	37,064
負債・純資産合計	42,258	41,727

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (22.4.1 から 23.3.31 まで)	前 期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
売上高	20,884	19,965
売上原価	13,596	13,122
売上総利益	7,287	6,842
販売費及び一般管理費	5,383	5,196
営業利益	1,904	1,645
営業外収益	198	195
営業外費用	26	18
経常利益	2,076	1,823
特別利益	130	182
特別損失	483	132
税金等調整前当期純利益	1,724	1,873
法人税、住民税及び事業税	630	828
法人税等調整額	△ 25	△ 32
少数株主利益（控除）	14	13
当期純利益	1,104	1,064

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (22.4.1 から 23.3.31 まで)	前 期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,511	2,876
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,214	△ 114
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 397	△ 319
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1	1
現金及び現金同等物の 増加額（又は減少額）	△ 1,100	2,443
現金及び現金同等物の 期首残高	9,016	6,572
現金及び現金同等物の 期末残高	7,915	9,016

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

当期(22.4.1から23.3.31まで)

(単位：百万円)

科 目	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
平成22年3月31日残高	2,310	3,116	31,841	△ 329	36,938	△ 207	91	35	△ 81	207	37,064
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 302		△ 302						△ 302
当期純利益			1,104		1,104						1,104
自己株式の取得				△ 0	△ 0						△ 0
土地再評価差額金の取崩			△ 19		△ 19						△ 19
株主資本以外の変動額合計						215	19	△ 10	223	△ 207	15
連結会計年度中の変動額合計	—	—	782	△ 0	782	215	19	△ 10	223	△ 207	798
平成23年3月31日残高	2,310	3,116	32,624	△ 329	37,720	7	110	24	142	—	37,862

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務諸表

貸借対照表

科 目	当 期 (23.3.31 現在)	前 期 (22.3.31 現在)
(資 産 の 部)		
流動資産	10,526	11,407
現金及び預金	6,040	7,997
受取手形	341	308
売掛金	963	814
有価証券	1,614	801
たな卸資産	1,380	1,288
その他	185	197
固定資産	27,083	25,990
有形固定資産	16,305	15,210
建物	4,000	4,065
土地	11,813	10,563
その他	491	581
無形固定資産	67	91
投資その他の資産	10,711	10,688
投資有価証券	4,602	4,142
関係会社株式	2,323	2,283
関係会社長期貸付金	3,663	3,883
その他	122	378
資産合計	37,610	37,397

損益計算書

科 目	当 期 (22.4.1 から 23.3.31 まで)	前 期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
売上高	10,327	9,841
売上原価	5,545	5,316
売上総利益	4,782	4,524
販売費及び一般管理費	3,641	3,480
営業利益	1,140	1,044
営業外収益	277	323
営業外費用	22	12
経常利益	1,395	1,355
特別利益	0	143
特別損失	453	128
税引前当期純利益	942	1,370
法人税、住民税及び事業税	345	575
法人税等調整額	△ 36	△ 15
当期純利益	633	810

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科 目	当 期 (23.3.31 現在)	前 期 (22.3.31 現在)
(負 債 の 部)		
流動負債	968	1,371
買掛金	425	390
未払金	94	99
その他	447	880
固定負債	884	814
退職給付引当金	288	252
その他	595	561
負債合計	1,852	2,186
(純資産の部)		
株主資本	35,639	35,328
資本金	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	30,543	30,231
自己株式	△ 329	△ 329
評価・換算差額等	118	△ 116
その他有価証券評価差額金	7	△ 207
土地再評価差額金	110	91
純資産合計	35,757	35,211
負債・純資産合計	37,610	37,397

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書 当期(22.4.1から23.3.31まで) (単位：百万円)

科 目	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	評価・換算差額等	純資産合計
平成22年3月31日残高	2,310	3,116	30,231	△ 329	△ 116	35,211
事業年度中の変動額						
剰余金の配当			△ 302			△ 302
当期純利益			633			633
自己株式の取得				△ 0		△ 0
土地再評価差額金の取崩			△ 19			△ 19
株主資本以外の変動額合計					234	234
事業年度中の変動額合計	—	—	311	△ 0	234	546
平成23年3月31日残高	2,310	3,116	30,543	△ 329	118	35,757

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 & 会社の概要

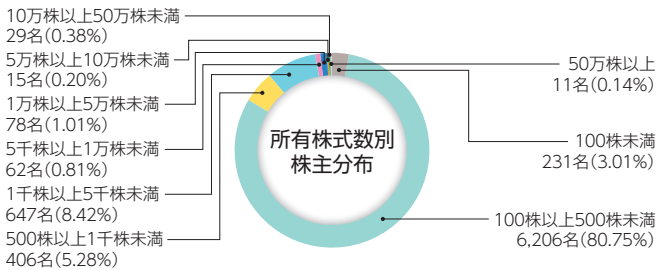
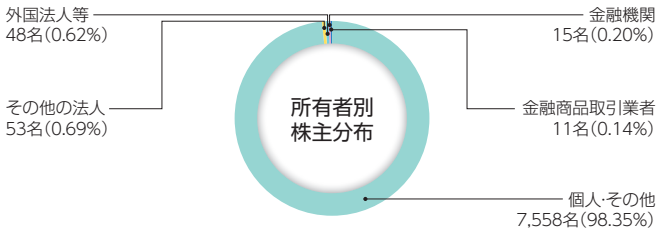
株式の状況 (平成23年3月31日現在)

株式の総数	
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	22,274,688株

株主数	
当期末株主数	7,685名

大株主	持株数	議決権比率
サントレード株式会社	3,246,528株	15.0%
田中 秀明	1,496,976	6.9
鈴木 幹子	1,492,656	6.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	799,200	3.6
株式会社みずほ銀行	709,600	3.2
田中 信	603,720	2.7
佐藤 佐世子	594,192	2.7
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	575,300	2.6
田中 明三	552,424	2.5
田中 斗葵恵	502,624	2.3

※上記の他、自己株式が660,891株ございます。



会社の概要 (平成23年3月31日現在)

商 号	株式会社ソフト99コーポレーション
設 立	昭和29年10月28日
本 社	大阪府中央区谷町二丁目6番5号
資 本 金	2,310,056,000円
従 業 員 数	193名
事 業 内 容	自動車用化学製品の製造及び販売

役員 (平成23年6月28日現在)

代表取締役社長	渡 辺 泰
取 締 役 会 長	田 中 明 三
常 務 取 締 役	平 野 泰 彦
常 務 取 締 役	西 川 保
取 締 役	辻 平 春 幸
取 締 役	奥 埜 佳 秀
取 締 役	田 中 秀 明
取 締 役	石 居 誠
取 締 役	田 中 信
常 勤 監 査 役	赤 星 学
監 査 役	平 井 康 博
監 査 役	柏 岡 勲
監 査 役	岸 田 靖 雄